

特集①裏側を知って賢く付き合う!  
クスリ・健康食品・自然食材

特集②どうなる?ヤマト  
“ホワイト改革”の多難

週刊

# ダイヤモンド

特別インタビュー  
みずほフィナンシャルグループ  
佐藤康博社長

DIAMOND  
WEEKLY  
定価  
710円 2017  
6/17

第105巻23号／毎週土曜日発行／平成29年6月17日発行／大正2年5月10日第3種郵便物認可

## エセ健康科学を見抜く クスリ・ 健康食品の ウソ・ホント

- 
- 高血圧薬 ●コレステロール薬 ●糖尿病薬 ●睡眠薬 ●胃薬 ●抗うつ薬 ●機能性ヨーグルト
  - 乳酸菌チョコレート ●高カカオチョコレート ●乳酸菌食品 ●トクホ茶 ●トクホコーラ ●トクホ青汁 ●アサイー ●ココナツオイル ●チアシード ●グリーンスムージー ●デトックスウォーター
  - トマトジュース ●パクチー ●蜂蜜 ●ラクトフェリン ●グルコサミン ●コンドロイチン硫酸
  - ヒアルロン酸 ●コラーゲン ●DHA ●EPA ●アスタキサンチン ●イチョウ葉エキス ●タウリン
  - プロポリス ●オルニチン ●ウコン ●マカ ● $\alpha$ -リポ酸 ●コエンザイムQ10 ●イソフラボン
  - プラセンタ ●セラミド ●ビルベリー ●葉酸 ●アカモク ●アマランサス ●コメ ●ヒジキ ●オーガニック ●プリン体ゼロ ●コレステロールゼロ ●糖質&糖類ゼロ ●無漂白モヤシ ●食品添加物

弁解していたという。医学的な誤りがある記事は問い合わせがあったものだけとは限らない。全てのページをあらためて医師に監修させ、さらに他ページからの無断引用はないかを調べるなどの作業をいつまでに完了できるのか。その間にも、誤った医療情報が世間に拡散する恐れがある。昨年騒動になったディー・エヌ・エーの医療情報サイト「ウェルク」は、指摘を受けて潔く閉鎖した。「ヘルスケア大学もいつたん閉鎖した上で、記事の見直しをすべき」と桑満院長は促す。

ヘルスケア大学には他にも不可解な点がある。トップページに記載されている参画医師の数が、5月24日には5183名だったが、



大手クラウドソーシングサイトに掲載されている、美容・医療記事の作成募集。原稿料は1記事1000円

## 医療情報のウソを至難の業 素人が見抜くのは

6月7日時点で4313名になっているのだ。「医師もしくは医療機関と契約を締結し掲載している」(リッチメディア広報)というが、この騒動が明るみに出で、「初めて自分がこのサイトに参画医師として掲載された事実を知った」という医師もあり、削除要請が続出したとみられる。

昨年、誤った医療情報で大炎上したウェルクが閉鎖に追い込まれ、他の医療メディアも閉鎖や内容の見直しを図るなど、医療に関して信頼性の低い情報はある程度淘汰されたように見えた。

そんな中で、ここにきてヘルスケア大学の問題が急浮上してきたのは「健康関連のキーワードを検索すると、このサイトが上位に表示されていることが背景にある」と、SEO(特定のキーワード検索で上位に表示される対策)に詳しい辻正浩氏は分析する。

ウェルクも同様、「一時期は、健康関連キーワードの検索結果で、他の医療情報サイトにかなりの差をつけていた」(辻氏)という。右ページ図は、健康関連キーワード

の検索結果で、上位表示されるサイトと、そのキーワード数の推移を表したものだ。

辻氏は「上位に表示される医療サイト全ての信頼性が低いわけではない」と断つた上で、「グーグル検索では、短期間で大量の記事を掲載したウェブサイトが上位に表示される傾向がある。ウェルクは、まさにそのアルゴリズムを絶妙に突いていた」と解説する。ヘルスケア大学も前に述べた通り、記事は数万ページに及んでいる。

大量の記事を短期間に投下するには人海戦術しかない。ウェルクでは、インターネットを介したクラウドソーシングで、医療媒体の経験を問わずライターを書き集め、安い単価で大量の記事を執筆させていた。その結果、医学的な間違いや、他サイトからの無断引用などが、そもそも最大の売りだった。

「医師監修」に疑問符が付く以上、この説明は少々苦しい。

ネットメディアの多くは、広告料が主な収益。広告料を得るには、民放テレビ番組の視聴率と同じで、多くの人にサイトを訪れてもらう必要がある。そのためには、検索

結果の上位表示が不可欠だが、辻氏は「医療メディアは、SEOにおいて、まずはサイトの信頼性に力を注ぐべき」と苦言を呈する。

冒頭で紹介したぼうこう炎の記事の誤りを指摘できた人はほとんどいないだろう。基本的に、素人が医療情報の真贋を見抜くのは至難の業。「信頼できるサイトはごくわずか」ということを前提に、上手く付き合っていきたい。

- 1 命に関わることはネットで検索せず、すぐに医療機関へ
  - 2 匿名記事、アフィリエート記事は問題外
  - 3 「～が治る！」はNGワード
  - 4 基本的には公的機関が発信する医療情報を利用する
  - 5 複数のサイトを見て総合的に判断する
- \*取材を基に本誌編集部作成



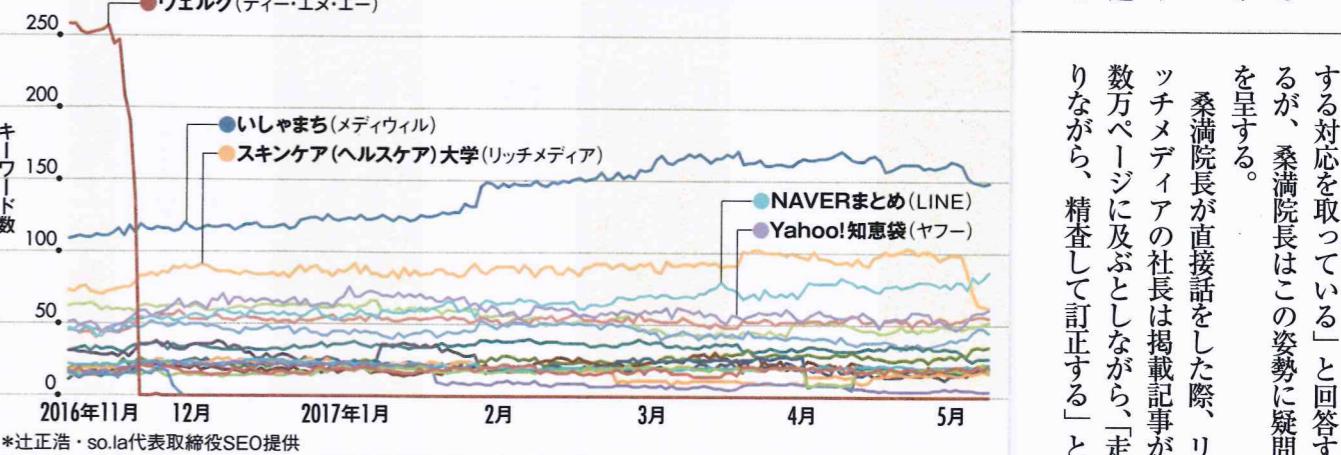
「[ヘルスケア大学]」のトップページ。上部に「5183名の医師が参画するヘルスケア情報サイト」とある。この文章は、「ヘルスケア大学」という医療情報サイトに掲載された「ぼうこう炎」に関する記事の一部だ。この中には、医学的には極めて初步的な間違いがあるというが、どの箇所か分かるだろうか。泌尿器科が専門の五本木クリニック・桑満おさむ院長による「尿管は、腎盂腎炎という病気でもない限り、通常は無菌状態」という。

ヘルスケア大学は全ての記事を医師をはじめとする医療の専門家の監修の下に作成している。それぞれの記事の一一番上には監修医師の名前と写真が掲載されている。しかし、冒頭のぼうこう炎の記事には「15分見ただけで、

同じです」――。  
この文章は、「ヘルスケア大学」という医療情報サイトに掲載された「ぼうこう炎」に関する記事の一部だ。この中には、医学的には極めて初步的な間違いがあるというが、どの箇所か分かるだろうか。泌尿器科が専門の五本木クリニック・桑満おさむ院長による「尿管は、腎盂腎炎という病気でもない限り、通常は無菌状態」という。

ヘルスケア大学は自身のブログで同サイトの複数の記事に医学的な間違いがあることを指摘した。すると間もなく該当する記事から医師の写真と名前が削除され、「ヘルスケア参画ドクター」という言葉に変更されたり、記事 자체が非公開とされたページもあった。ちなみに6月7日時点で、冒頭のぼうこう炎の記事は、他の医師の監修を受け、修正済みのものに変更されている。

ヘルスケア大学の運営会社であるリッチメディアは、本誌の取材に「お問い合わせを受け、修正済みのものに変更されることをお知らせする」と回答する。桑満院長は自身のブログで同サイトの複数の記事に医学的な間違いがあることを指摘した。すると間もなく該当する記事から医師の写真と名前が削除され、「ヘルスケア参画ドクター」という言葉に変更されたり、記事 자체が非公開とされたページもあった。ちなみに6月7日時点で、冒頭のぼうこう炎の記事は、他の医師の監修を受け、修正済みのものに変更されている。



# ネットに工セ情報が蔓延する証

「サプリががんに効く」などの記事で大炎上し、閉鎖に追い込まれたウェルク。しかし、また同様の事態が勃発しているといい、インターネット上で医療情報を扱う難しさが垣間見える。

「医師監修でも信用できない

他にも致命的な間違いが複数あった。まともな医師が監修しているなら、これに気が付かないはずがない」(桑満院長)。

桑満院長は自身のブログで同サイトの複数の記事に医学的な間違いがあることを指摘した。すると間もなく該当する

記事から医師の写真と名前が削除され、「ヘルスケア参画ドクター」という言葉に変更されたり、記事 자체が非公開とされたページもあった。ちなみに6月7日時点で、冒頭のぼうこう炎の記事は、他の医師の監修を受け、修正済みのものに変更されている。

ヘルスケア大学の運営会社であるリッチメディアは、本誌の取材に「お問い合わせを受け、修正済みのものに変更されることをお知らせする」と回答する。桑満院長は自身のブログで同サイトの複数の記事に医学的な間違いがあることを指摘した。すると間もなく該当する

記事から医師の写真と名前が削除され、「ヘルスケア参画ドクター」という言葉に変更されたり、記事 자체が非公開とされたページもあった。ちなみに6月7日時点で、冒頭のぼうこう炎の記事は、他の医師の監修を受け、修正済みのものに変更されている。

ヘルスケア大学の運営会社であるリッチメディアは、本誌の取材に「お問い合わせを受け、修正済みのものに変更されることをお知らせする」と回答する。桑満院長は自身のブログで同サイトの複数の記事に医学的な間違いがあることを指摘した。すると間もなく該当する

記事から医師の写真と名前が削除され、「ヘルスケア参画ドクター」という言葉に変更されたり、記事 자체が非公開とされたページもあった。ちなみに6月7日時点で、冒頭のぼうこう炎の記事は、他の医師の監修を受け、修正済みのものに変更されている。

ヘルスケア大学の運営会社であるリッチメディアは、本誌の取材に「お問い合わせを受け、修正済みのものに変更されることをお知らせする」と回答する。桑満院長は自身のブログで同サイトの複数の記事に医学的な間違いがあることを指摘した。すると間もなく該当する